

# 千葉市田向遺跡

—宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2017

市 原 久 男

公益財団法人 千葉市教育振興財団

# 千葉市田向遺跡

—宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2017

市 原 久 男

公益財団法人 千葉市教育振興財団



## 例言

- 1 本書は、千葉市若葉区加曽利町760-1に所在する田向遺跡の宅地造成事業に伴う発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査および整理作業は、市原久男の委託を受け、千葉市教育委員会生涯学習部文化財課の指導のもと公益財団法人千葉市教育振興財団が実施したものである。
- 3 発掘調査の期間・面積・担当者は下記のとおりである。
  - ・確認調査  
期間：2016（平成28）年6月6日～6月9日  
面積：50/613 m<sup>2</sup> 担当者：長原亘
  - ・本調査  
期間：2016（平成28）年7月25日～2016（平成28）年8月1日 面積：100.5 m<sup>2</sup> 担当者：小林嵩
- 4 整理および本書の製作・編集は、佐藤瑤子・新田浩美・田中葉月・北田典子の協力を得て、小林が担当して行った。
- 5 整理期間は、2016（平成28）年8月2日～2017（平成29）年2月24日にかけて、断続的に行った。
- 6 遺構・遺物の撮影は小林・塚原勇人が行った。
- 7 本書の執筆は小林が行った。
- 8 出土資料・調査記録等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管・管理している。
- 9 発掘調査から報告書刊行まで、下記の諸機関の御指導・御協力を賜った。  
千葉市教育委員会生涯学習部文化財課・市原久男・株式会社不動産市場

## 凡例

- 1 本書に掲載した遺構図等の方位は、公共座標の北を基準としている。
- 2 土層及び遺物の色を記号で示してある場合は、農林水産省監修「新版 標準土色帖」による。
- 3 本文中の挿図の縮尺は原則として以下のとおりである。  
遺構実測図：1/40・1/60・1/150  
遺物実測図：土器1/4・1/3 土製品：1/3
- 4 遺構・遺物の図面はAdobe Systems社製Adobe Illustratorで編集作業を行った。
- 5 遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影し、Adobe Systems社製Adobe Photoshopで編集作業を行った。
- 6 第1図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図より作成したものである。

## 目次

### 例言・凡例

### 目次

第1章 田向遺跡の概要	1
1 遺跡の位置及び周辺遺跡	1
2 過去の調査歴	1
3 調査の方法	1
第2章 検出された遺構・遺物	3
1 縄文時代	3
2 古墳時代	3
3 古代	5
第3章 まとめ	6

### 写真図版

### 抄録

## 表目次

第1表 出土遺物観察表	6	第2表 出土遺物集計表	7
-------------	---	-------------	---

## 挿図目次

第1図 田向遺跡と周辺遺跡の位置	2	第2図 遺構配置図	2
第3図 周辺遺跡との位置関係	3	第4図 縄文時代遺構外出土遺物	3
第5図 第2号竪穴住居跡（1）	4	第6図 第2号竪穴住居跡（2）	5

第7図 古代遺構外出土遺物…………… 5

写真図版目次

図版1 第2号竪穴住居跡土層断面、第2号竪穴住居跡遺物出土状況1、第2号竪穴住居跡遺物出土状況2、第2号竪穴住居跡  
カマド、第2号竪穴住居跡全景

## 第1章 田向遺跡の概要

### 1 遺跡の位置及び周辺遺跡（第1図）

田向遺跡は、支川都川に面する標高約27mを測る台地上に位置している。本遺跡周辺では、旧石器時代～近世まで多くの遺跡が確認されている。旧石器時代の遺跡としては、城之腰遺跡でナイフ形石器やポイント類が出土している。縄文時代の遺跡は多く、向ノ台遺跡で早期の炉穴群、城之腰遺跡で中期前葉～中葉の集落、後期の貝塚である花輪貝塚や矢作貝塚、高崎台遺跡などが確認されている。弥生時代の遺跡も本遺跡周辺には多い。矢作貝塚で中期中葉の資料が確認されるほか、城之腰遺跡・猪鼻城跡・星久喜遺跡・辺田遺跡で中期後葉の比較的大規模な集落や墓域が検出され、本遺跡に近接する田向南遺跡では後期の集落が検出されている。弥生時代終末期～古墳時代にかけては小規模な集落が点在し、猪鼻城跡では前方後円墳1基を含めた古墳群が検出されている。古代の遺跡は千葉寺町付近に密集し、鷲谷津遺跡や観音塚遺跡、大北遺跡で確認される。本遺跡に近接する遺跡としては立木南遺跡が挙げられ、比較的大規模な集落が検出されている。中世の遺跡としては、都町・山王遺跡や向ノ台遺跡があり、堀跡や台地整形区画、地下式坑が検出されている。

### 2 過去の調査歴（第3図）

田向遺跡は平成27年度に調査が行われている（年報で掲載予定）。今回の調査区に近接する地点を調査し、奈良時代の竪穴住居跡が1軒検出されている。調査区内からは、縄文土器も出土し、五領ヶ台式～阿玉台Ⅰa式の資料がややまとまって出土している。その他にも早期後葉条痕文系、加曾利EⅡ式、弥生時代後期の土器片も僅かに出土した。

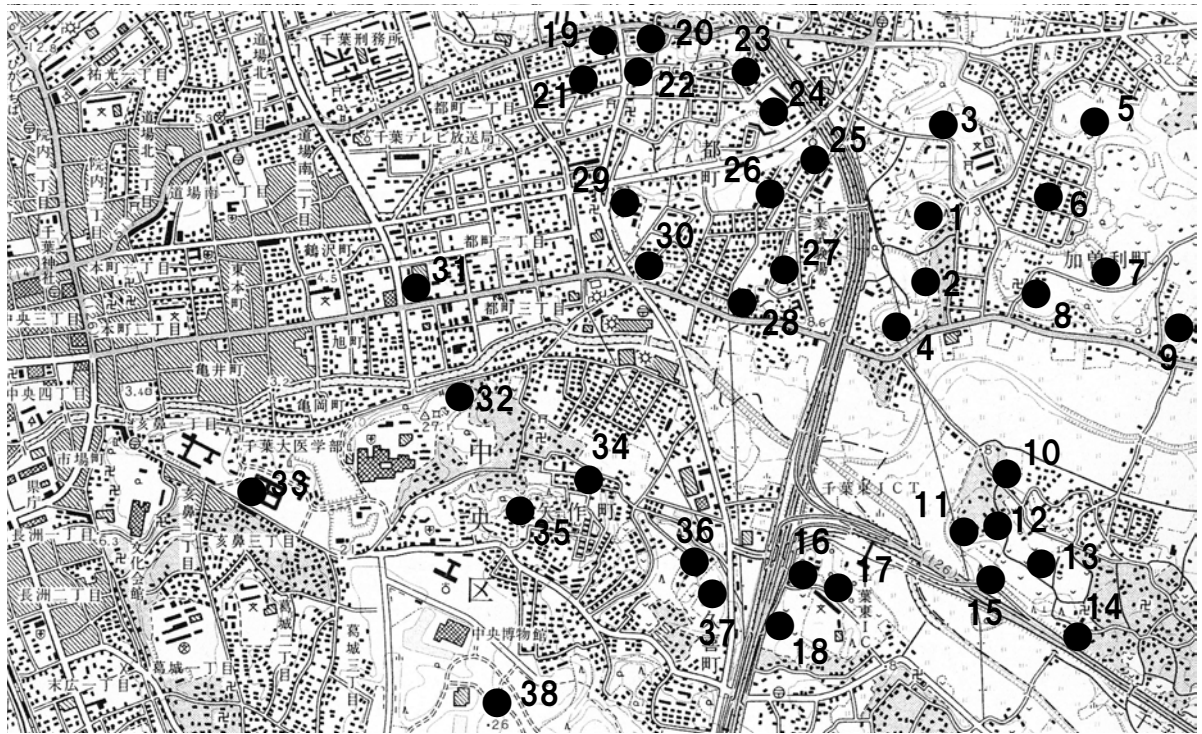
近接する立木南遺跡では古墳時代中期～古代にかけての竪穴住居跡や掘立柱建物跡が密集し、田向南遺跡では弥生時代後期の集落跡が検出されているが、その中間地点にあたる本遺跡は遺構の密度は低く、周辺の試掘調査などでも遺構はほぼ確認されていない。

### 3 調査の方法

発掘調査では、調査区内に基準杭を設定し、遺構平面図作成と遺物の取り上げは、この杭を基準として行った。また、遺構番号は平成27年度調査からの通し番号とした。

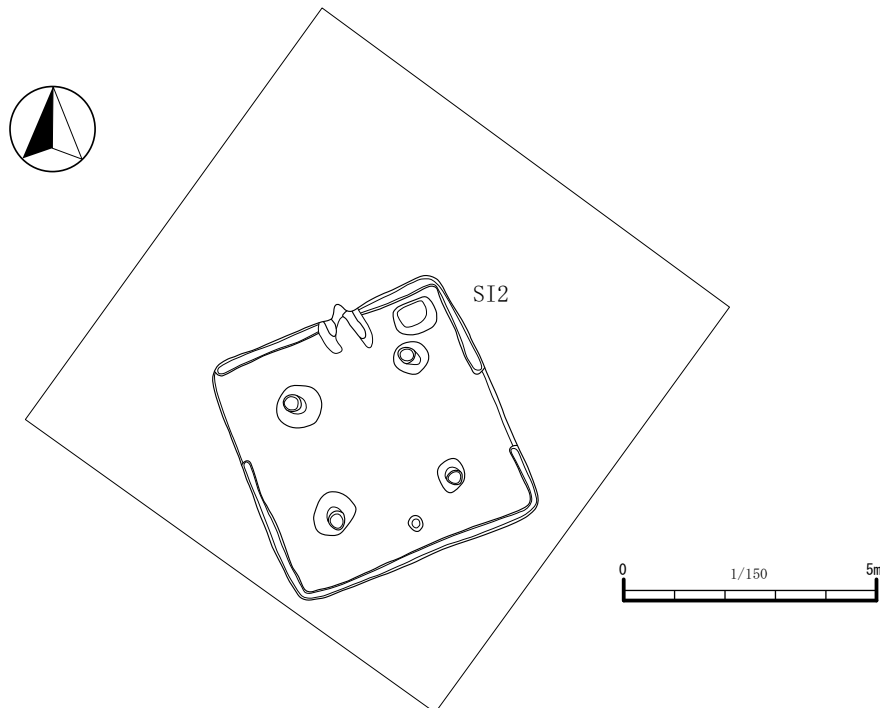
## 参考文献

- 加藤大揮ほか2011『千葉市中央区 猪鼻城跡 千葉大学医薬系総合研究棟建設に伴う発掘調査報告書』千葉大学 亥鼻地区埋蔵文化財調査委員会・千葉大学文学部考古学研究室
- 菊池真太郎ほか1979『千葉市城の腰遺跡―千葉東金道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告3―（千葉市大宮地区）』日本道路公団東京第一建設局・財団法人千葉県文化財センター
- 倉田義広ほか1988『立木南遺跡』千葉市教育委員会・財団法人千葉市文化財調査協会
- 田中英世2006『千葉市花輪貝塚―平成15年度確認調査報告書―』千葉市教育委員会・財団法人千葉市教育振興財団
- 塚原勇人2011『千葉市向ノ台遺跡―都県営住宅解体工事事業地内埋蔵文化財調査報告書―』千葉県・財団法人千葉市教育振興財団
- 塚原勇人・小林嵩2016『千葉市向ノ台遺跡Ⅱ―宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書―』有限会社新井トラスト
- 山本勇編1984『千葉市文化財調査報告書』第8集 千葉市教育委員会社会教育部文化課

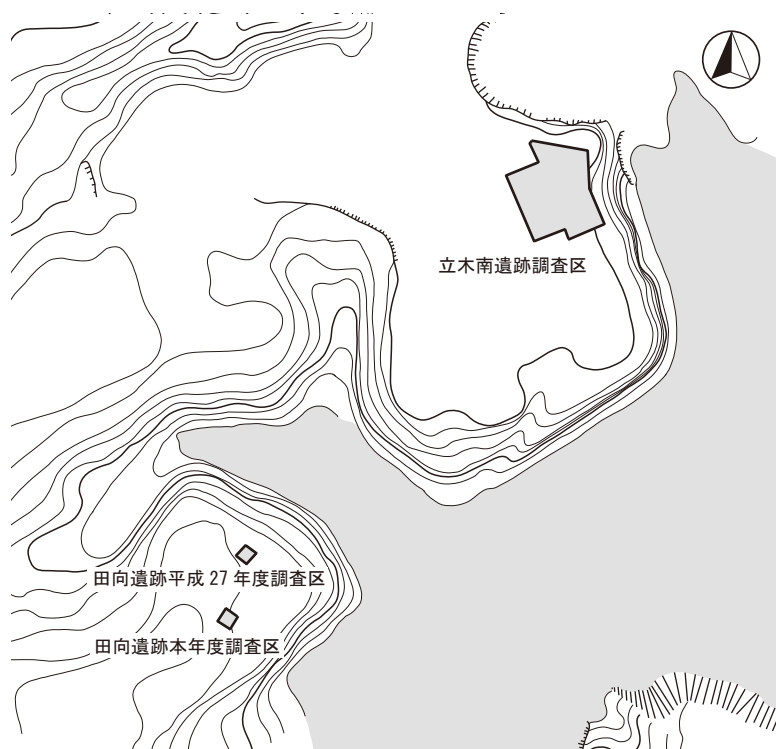


1: 田向遺跡 2: 田向南遺跡 3: 立木南遺跡 4: 和田前遺跡 5: 花輪貝塚 6: 花輪遺跡 7: 姫宮遺跡 8: 新山遺跡 9: 台畑南遺跡・台畑古墳群 10: 下和田西遺跡 11: 上和田遺跡 12: 宮ノ前遺跡 13: 東屋敷遺跡 14: 西屋敷遺跡 15: 城之腰遺跡 16: 星久喜遺跡 17: 高崎台遺跡 18: 南部多遺跡 19: 貝塚向遺跡 20: 木戸場北遺跡 21: 山ノ根遺跡 22: 木戸場遺跡 23: 天神台遺跡 24: 都町・山王遺跡 25: 蛤谷津上遺跡 26: 松原遺跡 27: 和田前西遺跡 28: 御所ヶ原郭遺跡 29: 向ノ台遺跡 30: 辺田遺跡 31: 宝導寺台遺跡 32: 矢作貝塚 33: 猪鼻城跡 34: 矢作三山塚遺跡 35: 井合遺跡 36: 和唐地遺跡 37: 琵琶首台遺跡 38: 荒久遺跡

第1図 田向遺跡と周辺遺跡の位置



第2図 遺構配置図



第3図 周辺遺跡との位置関係 (S=1/5000)

## 第2章 検出された遺構・遺物

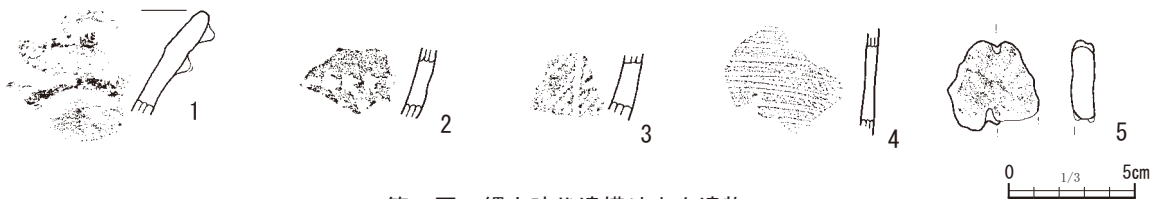
### 1 縄文時代 (第1・2表、第4図)

#### (1) 概要

遺構は検出されなかったが、調査区及び第2号竪穴住居跡覆土より、土器・土製品が出土している。

#### (2) 遺構外出土遺物

出土した遺物は早期後葉・前期後葉・中期前葉・後期後葉～晩期前葉の時期幅があり、土製品として中期前葉の土器片錘がある。遺物の総数は集計表(第2表)に記載した。



第4図 縄文時代遺構外出土遺物

### 2 古墳時代 (第1・2表、第5・6図)

#### (1) 概要

古墳時代後期の竪穴住居跡が1軒検出された。遺物の総数は集計表(第2表)に記載した。

#### (2) 竪穴住居跡

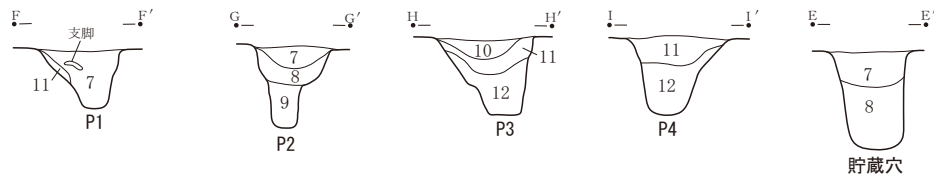
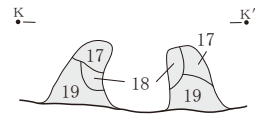
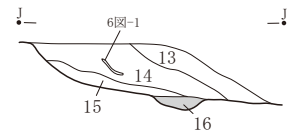
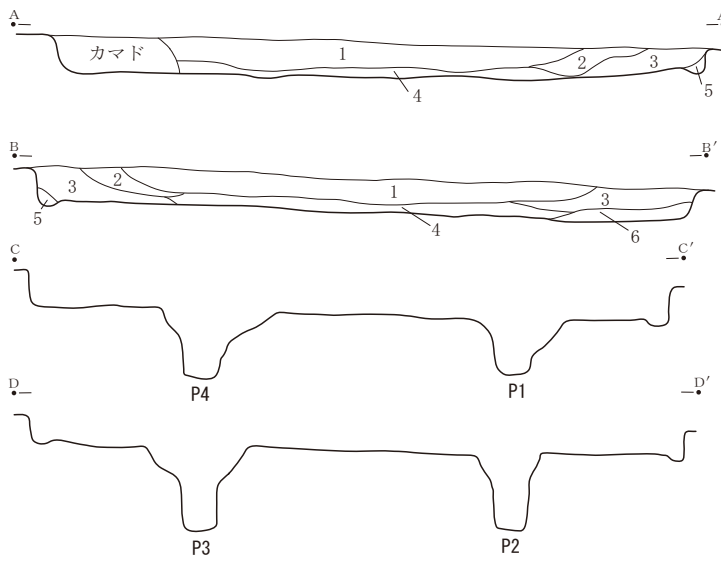
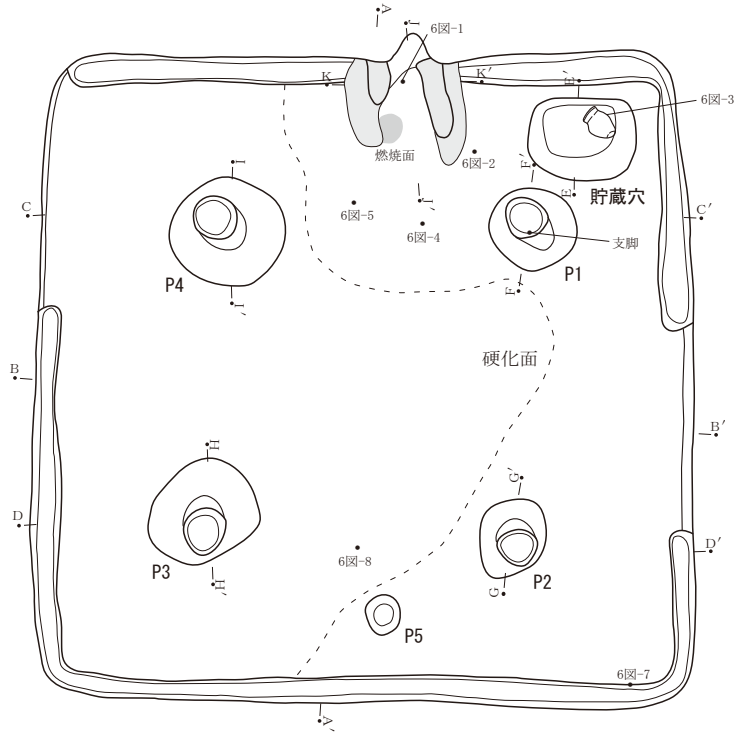
#### 第2号竪穴住居跡 (第1・2表、第5・6図)





ピット計測値

- P1 長：0.70m 短：0.64m 深：0.47m
- P2 長：0.65m 短：0.52m 深：0.60m
- P3 長：0.90m 短：0.85m 深：0.68m
- P4 長：0.90m 短：0.86m 深：0.54m
- P5 長：0.32m 短：0.30m 深：0.18m

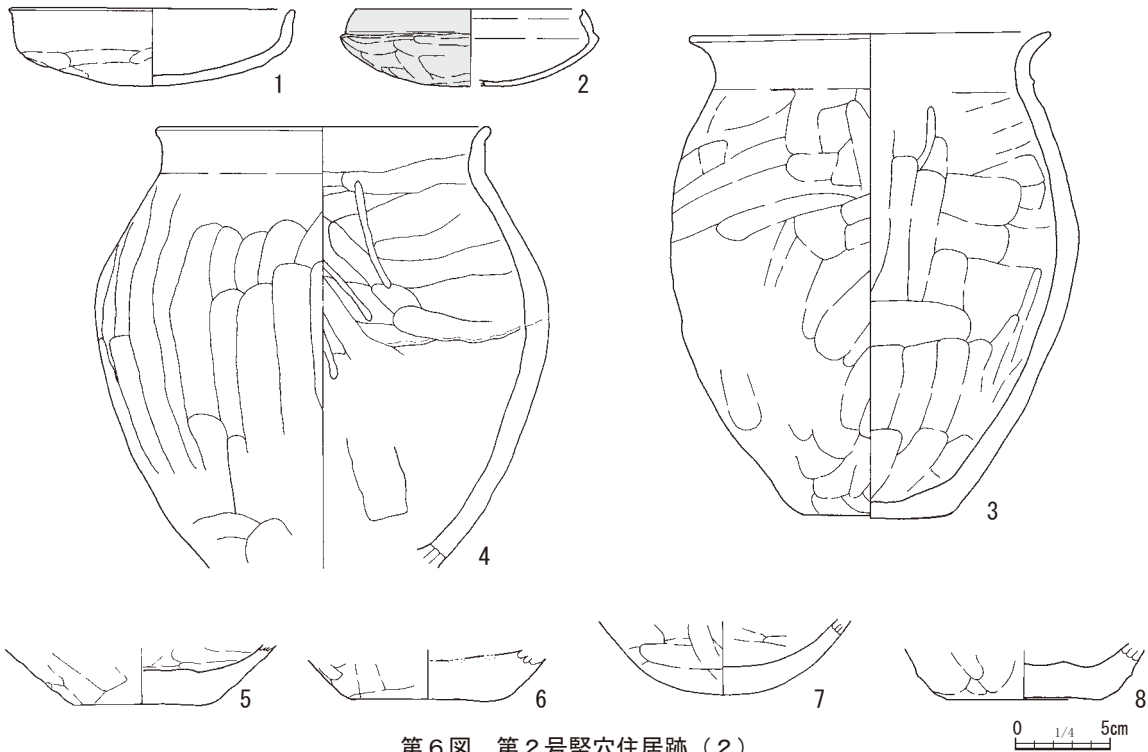


第5図 第2号竪穴住居跡(1)

SI2 土層注記

- 1 : 10YR3/1 粘性強・しまり弱 ローム粒中、焼土粒少
- 2 : 10YR4/2 粘性強・しまり弱 ローム粒少
- 3 : 10YR4/3 粘性・しまり強 2～3 cmのロームブロック少
- 4 : 10YR3/1 粘性・しまり強 ローム粒多、0.5～3 cmのロームブロック中
- 5 : 10YR4/3 粘性・しまり強 ローム主体
- 6 : 10YR4/4 粘性・しまり強 ローム主体
- 7 : 10YR4/3 粘性強・しまり弱 ローム粒多
- 8 : 10YR4/4 粘性・しまり強 ローム主体、黒色土少
- 9 : 10YR4/4 粘性強・しまり弱 ローム主体
- 10 : 10YR3/1 粘性強・しまり弱 ローム粒少、焼土粒少

- 11 : 10YR3/1 粘性強・しまり弱 ローム粒多
- 12 : 10YR4/3 粘性強・しまり弱 ローム主体
- 13 : 10YR3/2 粘性・しまり強 ローム粒中、焼土粒少
- 14 : 10YR4/3 粘性・しまり強 ローム粒多、山砂多、焼土粒少
- 15 : 10YR3/3 粘性・しまり強 ローム粒少、焼土粒中
- 16 : 7.5YR3/3 粘性弱・しまり強 ロームブロック多、焼土粒中、燃焼面
- 17 : 5YR4/1 粘性弱・しまり強 山砂主体
- 18 : 5YR5/2 粘性弱・しまり強 山砂主体、被熱している
- 19 : 5YR5/1 粘性弱・しまり強 山砂主体



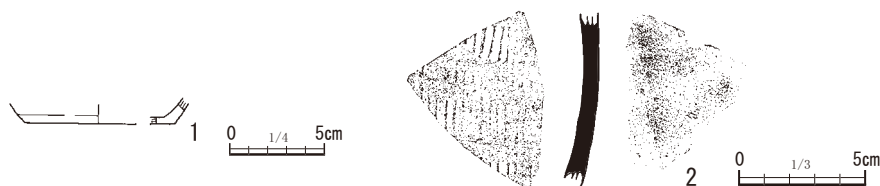
第6図 第2号竪穴住居跡(2)

重複関係:なし。平面形態:方形。主軸:N-25°-W。規模:長軸5.25m、短軸5.20m、深さ0.34m。構造:床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は東壁側を除き硬化している。壁溝は全周せず、北西隅と東壁の一部で途切れ、深さは0.11mを測る。ピット5基、貯蔵穴1基が検出され、北壁からはカマドが検出された。遺物:カマド内及びカマド周辺の床面、貯蔵穴内から土師器がまとめて出土している。時期:出土遺物から古墳時代後期(6世紀末～7世紀初頭・TK43～209式期)。

3 古代(第1・2表、第7図)

(1) 概要

遺構は検出されなかったが、調査区から僅かに土器が出土している。



第7図 古代遺構外出土遺物

## (2) 遺構外出土遺物

出土した遺物は細片のみである。遺物の総数は集計表（第2表）に記載した。

### 第1表 出土遺物観察表

#### 縄文時代遺構外出土遺物

- 1: 縄文土器・深鉢。器高<4.0>。口縁部片。内面擦痕。口唇部に隆帯を貼り付け、下部には弧状の隆帯を貼り付ける。胎土に繊維含む。早期後葉条痕文系。SI2出土。石英・白色粒中量。外面：10YR5/3、内面：10YR4/1。
- 2: 縄文土器・深鉢。器高<2.7>。胴部片。内面ヘラナデ。外面は変形爪形文が施される。前期後葉浮島式。SI2出土。礫微量、石英・白色粒少量。内外面：10YR5/3。
- 3: 縄文土器・深鉢。器高<2.6>。胴部片。内面ナデ。外面は原体単節LRを施文した後、押引文が施される。阿玉台式。SI2出土。礫・石英・白色粒多量。外面：7.5YR5/4、内面：10YR4/2。
- 4: 縄文土器・深鉢。器高<4.2>。胴部片。内面ミガキ。外面は条線が施される。後期後葉～晩期前葉。SI2出土。石英・白色粒中量。内外面：7.5YR5/6。
- 5: 土製品・土器片錘。長さ3.5cm、幅3.6cm、厚さ0.8cm、重量14.9g。ほぼ完形。内外面ヘラナデ。無文。中期前葉。SI2出土。礫・金雲母多量。10YR5/3。

#### SI2出土遺物

- 1: 土師器・坏。口径14.7、器高4.0。ほぼ完形。内面ミガキ。口縁部内面ヨコナデ、外面ミガキ。外面ヘラケズリ後ミガキ。礫・石英・白色粒多量。外面：10YR5/4、内面：7.5YR5/4。
- 2: 土師器・坏。口径(12.0)、器高4.0。1/2残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ミガキ。外面黒彩。石英・白色粒少量。内外面：7.5YR5/4。
- 3: 土師器・甕。口径18.9、底径7.4、器高25.2。4/5残存。内面ヘラケズリ後縦位のミガキ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ミガキ。底部ヘラケズリ。礫・石英・白色粒中量。内外面：7.5YR5/4。
- 4: 土師器・甕。口径(17.0)、器高23.0。4/5残存。内面ヘラケズリ及びナデ。一部に棒状工具による調整痕。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後、一部ナデ。輪積み痕が残る。礫・石英・白色粒少量。内外面：7.5YR5/3。
- 5: 土師器・甕。底径7.0、器高<2.9>。胴部下半～底部1/3残存。内外面ヘラケズリ後ナデ。底部ヘラケズリ。礫・石英・白色粒多量。内外面：7.5YR5/4。
- 6: 土師器・甕。底径8.0、器高<2.6>。胴部下半～底部2/3残存。内面ヘラケズリ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。内面は剥落する。礫・石英・白色粒中量。外面：7.5YR5/4、内面：7.5YR3/1。
- 7: 土師器・甕。器高<3.8>。胴部下半～底部2/3残存。内面ヘラナデ及びナデ。外面ヘラケズリ後ミガキ。礫・石英・白色粒多量。外面：7.5YR4/2、内面：7.5YR4/4。
- 8: 土師器・甕。底径7.8、器高<2.9>。胴部下半～底部2/3残存。内面ナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。白色粒微量。内外面：10YR5/2。

#### 古代遺構外出土遺物

- 1: 土師器・坏。底径(8.0)、器高<1.3>。底部片。内外面共にロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。礫・赤褐色粒・金雲母微量、白色粒中量。内外面：10YR4/2。
- 2: 須恵器・甕。器高<6.8>。胴部片。内面ヘラナデ。一部に指頭痕残る。外面平行タタキの後ナデ。石英・白色粒少量。内外面：7.5YR5/4。

## 第3章 まとめ

### 1 縄文時代

縄文時代の遺構は検出されなかったが、縄文時代早期後葉・前期後葉・中期前葉・後期後葉～晩期前葉までの遺物が出土した。平成27年度調査では早期後葉・五領ヶ台式～阿玉台I a式・加曽利E II式が出土している。今回の調査ではそれ以外に前期後葉・後期後葉～晩期前葉の資料が出土し、この時期も何らかの土地利用があったことが明らかになった。

### 2 古墳時代

古墳時代の遺構としては、竪穴住居跡が1軒検出された。時期は土師器坏の特徴から、古墳時代後期の小沢編年5期（6世紀末～7世紀初頭・TK43～209式期、小沢2008）に位置付けられる。近接した立木南遺跡でもこの時代の遺構は少なく、平成27年度調査で検出された竪穴住居跡は奈良時代のものである。田向遺跡では過去の試掘調査などでも遺構はほぼ検出されておらず、現状では時期を違えた竪穴住居跡が2軒検出されたのみである。遺構の広がりや周辺遺跡との関連の検討は今後の課

題である。

### 3 古代

調査区内及び第2号竪穴住居跡から古代の土器片が僅かに出土した。平成27年度調査で検出された第1号竪穴住居跡の時期に近接するものと考えられる。

今回の調査はごく限られた範囲の調査ではあったが、縄文・古墳時代・古代の遺跡の広がりや土地利用を考える上で、貴重な資料を得ることができた。

参考文献

小沢洋 2008『房総古墳文化の研究』六一書房

倉田義広ほか 1988『立木南遺跡』千葉市教育委員会・財団法人千葉市文化財調査協会

山本勇編 1984『千葉市文化財調査報告書』第8集 千葉市教育委員会社会教育部文化課

第2表 出土遺物集計表

遺構名			住居		調査区		総計
			2				
残存			個体	破片	個体	破片	
縄文	土器	早期・条痕文系		2			2
		浮島式		1			1
		阿玉台式		1			1
		後期後葉～晩期前葉		1			1
		縄文のみ		1		1	2
	沈線のみ		3			3	
	土製品	土器片錘	1				1
古墳後期	土師器	坏	2				2
		甕	6				6
		甕・甗		187		2	189
	土製品	支脚	1				1
		焼成粘土塊	1				1
古代	土師器	坏				1	1
	須恵器	甕		1			1
礫			1				1
総計			12	197		4	213





第2号竖穴住居跡土層断面（南西から）



第2号竖穴住居跡遺物出土状況（東から）



第2号竖穴住居跡遺物出土状況2（東から）



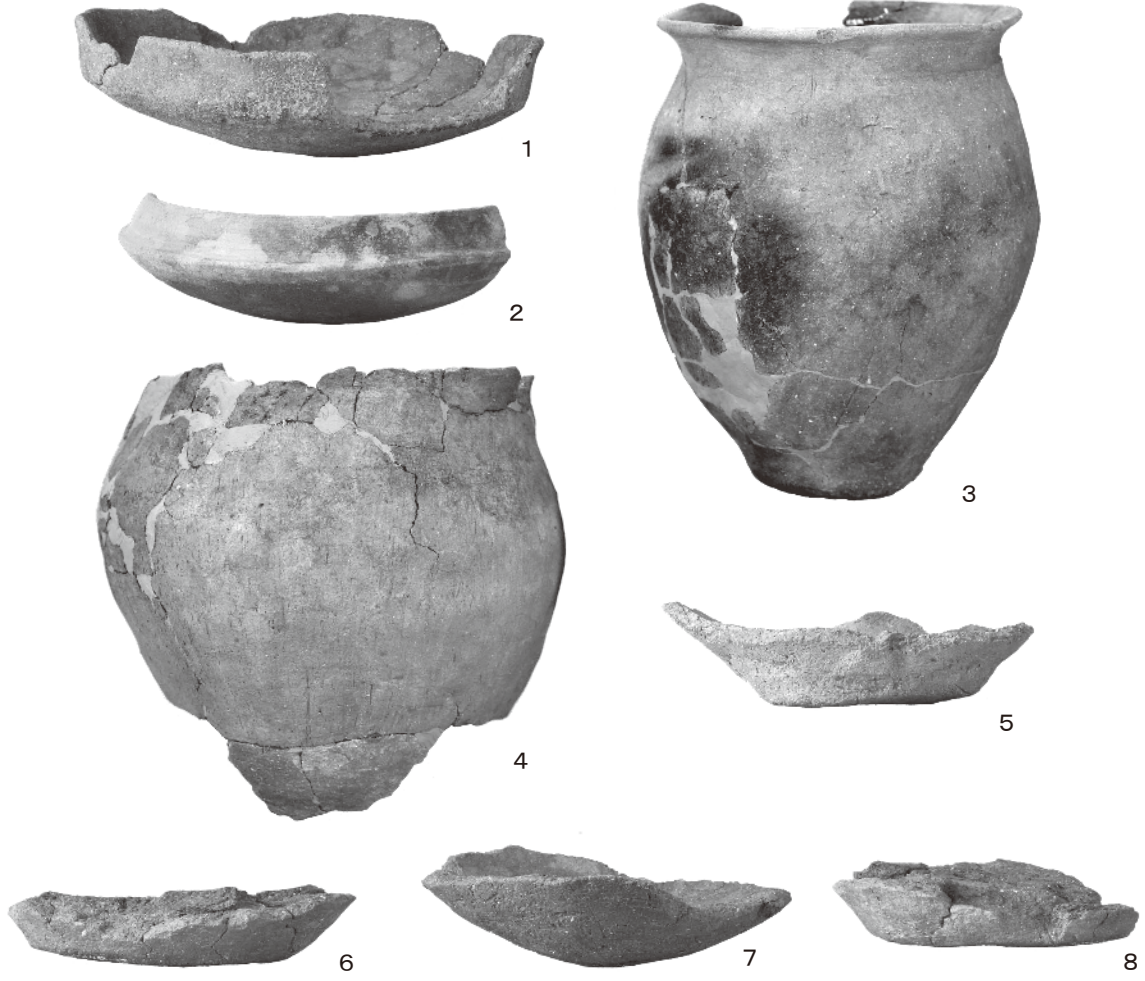
第2号竖穴住居跡カマド（南から）



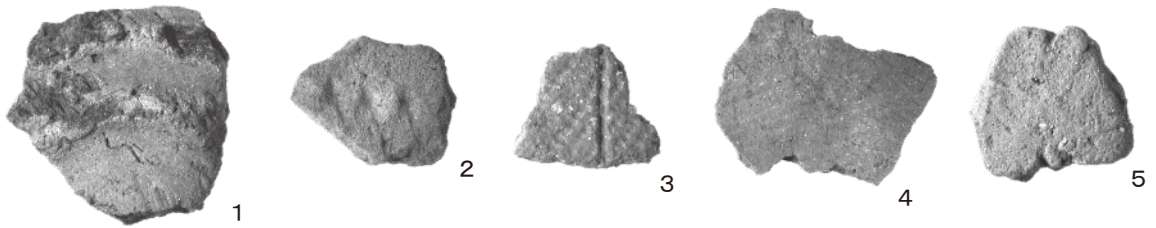
第2号竖穴住居跡全景（南東から）

第2号竖穴住居跡

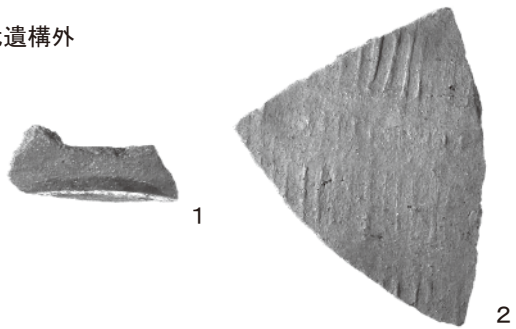
写真図版2



縄文時代遺構外



古代遺構外



報告書抄録

ふりがな	ちばしたむかいいせき					
書名	千葉県田向遺跡					
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書					
巻次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編著者名	小林 嵩					
編集機関	公益財団法人 千葉県教育振興財団 事務局 埋蔵文化財調査担当					
所在地	〒260-0814 千葉県中央区南生実町1210 埋蔵文化財調査センター TEL : 043-266-5433					
発行年月日	2017年2月25日					
ふりがな	ふりがな	コード	経緯度	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号			
たむかいいせき 田向遺跡	わかばく かさりちよ 若葉区 加曽利町 760-1	12104	若葉区 128	北緯 35° 36' 42" 東経 140° 9' 20"	20160725 ~ 20160801	100.5 m <sup>2</sup> 宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
田向遺跡	包蔵地	縄文時代		土器・土製品		
	集落跡	古墳時代後期	竪穴住居跡 1軒	土師器		
	包蔵地	奈良時代		土師器・須恵器		
要約	<p>1 縄文時代 遺構は検出されなかったが、縄文時代早期後葉・前期後葉・中期前葉・後期後葉～晩期前葉の資料が出土した。</p> <p>2 古墳時代後期 竪穴住居跡 1軒が検出された。平成27年度調査区では奈良時代の竪穴住居跡が1軒検出されているが、周辺では過去の確認調査などでほぼ遺構は確認されていない。近接する田向南遺跡や立木南遺跡と比較すると遺構の密度は低い。</p> <p>3 奈良時代 調査区及び竪穴住居跡覆土から土器片が出土した。平成27年度調査で検出された竪穴住居跡に近接する時期のものと考えられる。</p>					



千葉県田向遺跡  
―宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書―  
平成29年2月25日発行

編集・発行 市原 久男  
公益財団法人 千葉県教育振興財団  
事務局 埋蔵文化財調査担当  
〒260-0814  
千葉県中央区南生実町1210  
T E L : 043-266-5433

印 刷 株式会社 正文社  
〒260-0001  
千葉県中央区都町1-10-6  
T E L : 043-233-2235

